

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 04-177300

(43)Date of publication of application : 24.06.1992

(51)Int.Cl.

G10L 7/04
G10L 9/00
H03M 7/30

(21)Application number : 02-305114

(71)Applicant : MATSUSHITA ELECTRIC IND CO LTD

(22)Date of filing : 09.11.1990

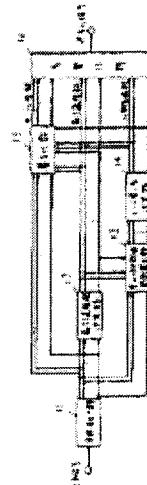
(72)Inventor : NAGAI KIYOTAKA
NAKAJIMA KOJI

(54) SOUND RANGE DIVIDING AND CODING DEVICE

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide the most appropriate assignment of bit, reduce influence of repeating distortion and improve quality of voice sound signal by a method wherein a weighing coefficient is set for every range in response to a masking amount of a repeating distortion at an analyzing filter part.

CONSTITUTION: An evaluation function in which a masking effect and a contribution degree of wave distortion are variable in response to a value of a weighing coefficient is utilized. The weighing coefficient is set for every partial region in such a way as a degree of contribution of a wave distortion is increased at a partial range in which a masking effect is low and influence of a repeating distortion is high. A weighing coefficient is applied at a weighing evaluation function calculation part 13 to calculate a weighing evaluation calculation function. The weighing evaluation function is used at a bit assignment determination part 14 to determine the number of bits assigned to each of the partial regions. With such an arrangement, it is possible to perform the most appropriate bit assignment, reduce influence of repeating distortion and to improve quality of sound voice signal.



⑩ 日本国特許庁 (JP) ⑪ 特許出願公開
 ⑫ 公開特許公報 (A) 平4-177300

⑬ Int.Cl.⁵ 請別記号 行内整理番号 ⑭ 公開 平成4年(1992)6月24日
 G 10 L 7/04 F 8622-5H
 9/00 J 8622-5H
 H 03 M 7/30 7259-5J

審査請求 未請求 請求項の数 4 (全10頁)

⑮ 発明の名称 音声帯域分割符号化装置

⑯ 特 願 平2-305114

⑰ 出 願 平2(1990)11月9日

⑱ 発 明 者 永 井 清 隆 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内

⑲ 発 明 者 中 島 康 志 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内

⑳ 出 願 人 松下電器産業株式会社 大阪府門真市大字門真1006番地

㉑ 代 理 人 弁理士 小 銀 治 明 外2名

明細書

1. 発明の名称

音声帯域分割符号化装置

2. 特許請求の範囲

(1) 音声信号を複数の部分帯域に分割し、各部分帯域の信号を所定の時間有する区間に分割する分析フィルタ部と、

各部分帯域毎に、前記区間内の信号の絶対値の最大値を表わす最大値情報を決定し、出力する最大値情報決定部と、

各部分帯域毎に、前記最大値情報決定部からの最大値情報の対数から、前記分析フィルタ部からの部分帯域の信号と聴覚のマスキング規則に基づいて算出した各部分帯域のマスクされるパワーの平方根の対数に重み付け係数を掛けたものを引くことにより重み付け評価閾数を求める、出力する重み付け評価閾数算出部と、

前記重み付け評価閾数算出部からの重み付け評価閾数を用いて各部分帯域に割り当てるビット数を決定し、ビット割当情報を出力するビット割当

決定部と、

各部分帯域毎に、前記分析フィルタ部からの部分帯域の信号を前記最大値情報決定部からの最大値情報と前記ビット割当決定部からのビット割当情報とに基づいて重み化し、サンプル情報を出力する量子化部とを具備した音声帯域分割符号化装置。

(2) 分析フィルタ部の折返し歪のマスキング量に応じて各部分帯域毎に重み付け係数を設定する重み付け評価閾数算出部を有する請求項1記載の帯域分割符号化装置。

(3) 音声信号を複数の部分帯域に分割し、各部分帯域の信号を所定の時間有する区間に分割する分析フィルタ部と、

各部分帯域毎に、前記区間内の信号の絶対値の最大値を表わす最大値情報を決定し、出力する最大値情報決定部と、

各部分帯域毎に、前記最大値情報決定部からの最大値情報の対数から前記分析フィルタ部からの部分帯域の信号と聴覚のマスキング規則に基づづいて算出した各部分帯域のマスクされるパワーの平方根の対数に重み付け係数を掛けたものを引くことにより重み付け評価閾数を求める、出力する重み付け評価閾数算出部と、

特開平4-177300 (2)

いて算出した各部分帯域のマスクされるバーコード方振の対数に複数の重み付け係数を掛けたものを引くことにより複数の重み付け評価関数を求め、出力する重み付け評価関数算出部と。

前記重み付け評価関数から既に割り当てられたビット数を引いた値に応じて前記複数の重み付け評価関数を選択して、各部分帯域に割り当てるビット数を決定し、ビット割当情報を出力するビット割当決定部と、

各部分帯域毎に、前記分析フィルタ部からの部分帯域の信号を、前記最大確情報決定部からの最大確情報と前記ビット割当決定部からのビット割当情報を基づいて量子化し、サンプル情報を出力する量子化部とを具備した音声帯域分割符号化装置。

(4)重み付け評価関数から割当ビット数を引いた値が、閾値より大きいときには重み付け係数の値が1の重み付け評価関数を選択し、閾値以下のときには重み付け係数の値が0の重み付け評価関数を選択するビット割当決定部を有する請求項3

SCAM SYSTEM)と題する論文(以下、文献1と呼ぶ)や、アル・エスト・シェイ・フェルデュース(R. N. J. VBLDHUIS)等によりフィリップス・ジャーナル・オブ・リサーチ(PHILIPS JOURNAL OF RESEARCH)誌、第44巻、2/3号、328頁～343頁、1989年に発表された「デジタルオーディオ信号の帯域分割符号化」(SUB BAND CODING OF DIGITAL AUDIO SIGNALS)と題する論文(以下、文献2と呼ぶ)に記載されている。

以下図面を参照しながら、従来の音声帯域分割符号化装置とその後符号化装置について説明する。

第5図は、従来の音声帯域分割符号化装置のブロック図を示すものである。

第5図において、51は分析フィルタ部、52は最大確情報決定部、53は評価関数算出部、54はビット割当決定部、55は量子化部、56は多量化部である。

以上のように構成された音声帯域分割符号化装

置の構成分割符号化装置。

3. 発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は、テープ、ディスク等の記録、再生系や通信、放送等の伝送系の高能率符号化に用いられる音声帯域分割符号化装置に関するものである。

従来の技術

近年、高品位音声信号の高能率符号化を実現する装置として、音声帯域分割符号化装置が注目を集めている。

従来の音声帯域分割符号化装置としては、例えばジー・スィール(G. THEILE)等によりイー・ピー・ユー・レビュー・テクニカル(EBU REVIEW-TECHNICAL)誌、第230号、71頁～94頁、1988年8月に発表された「高品位音声信号の低ビットレート符号化 MASCAMシステムの紹介」(LOW BIT-RATE CODING OF HIGH QUALITY AUDIO SIGNALS. AN INTRODUCTION TO MA

試について、以下の動作を説明する。

第5図において、分析フィルタ部を1体、入力されたデジタル音声信号を複数の部分帯域に分割するための複数の帯域通過フィルタからなるフィルタ群である。デジタル音声信号のサンプリング周波数が32kHzから48kHzの場合、人間の聴覚特性の臨界帯域幅に対応して16倍から32倍の部分帯域に分割される。分析フィルタ部51はデジタルフィルタであり、例えばインテグレーバンドフィルタバンク(INTEGER-BAND FILTER BANK)によって構成される。インテグレーバンドフィルタバンクについては、ニヌ・エス・ジャイアント(N. S. JAYANT)とピー・ノル(P. NOLL)によりプレンティス・ホール(PRENTICE-HALL)社から1984年に出版された「整形のデジタル符号化」(DIGITAL CODING OF WAVEFORMS)と題する本の第1章(以下、文献3と呼ぶ)に記載されている。インテグレーバンドフィルタバンクでは、全帯域

特開平4-177300 (3)

幅の部分帯域の帯域幅に対する比が整数であり、この比で間引きを行うことにより、帯域通過信号を低周波数信号に周波数変換することができる。しかしながら間引きによって帯域の境界で折返し歪が発生する。分析フィルタによって発生することの折返し歪を合成フィルタでキャンセルすることができるフィルタとしてクオドラミラーフィルタ(QUADRATURE MIRROR FILTER、以下、QMFと呼ぶ)が広く用いられている。QMFでは隣接する部分帯域の信号の量子化幅が同一であるときには折返し歪をキャンセルすることができる。分析フィルタ部51で複数の部分帯域に分割された信号は5msから20msの所定の時間を有する区間に区切られる。

最大値情報決定部52は、分析フィルタ部51から各部分帯域毎に区間内の信号の絶対値の最大値を求め、最大値情報を出力する。最大値情報としては、例えば最大値を8ビットで対数量子化したもののが用いられる。

評価関数算出部53は、隨意のマスキング規則

当を行う。

$$\sum_{i=1}^k B_i = B_q$$

このために評価関数算出部53は、部分帯域番号*i*の評価関数*B_i*として次式を計算し、出力する。

$$B_i = \log_2 (P_i / M_i)^{1/2} \\ = \log_2 P_i - (\log_2 M_i) / 2$$

第6図は評価関数算出部53のフローチャートである。評価関数算出部53では、最初に分析フィルタ部51からの各部分帯域の信号を用い、各部分帯域の信号のパワーを算出する。次に、各部分帯域の信号のパワーとマスキング規則に基づいて、帯域内の信号によってまた隣接帯域の信号によってマスキングされて人間の耳には聞こえないマスクトパワーを算出する。マスクトパワーの算出法については、例えば文獻2の334頁～338頁に記載されている。次に、各部分帯域毎に、最大値情報決定部52からの最大値情報の2を底とする対数から、マスクトパワーの2を底とする対数に2分の1を掛けたものを引くことにより評

に基づいて、ビット割当決定部54で最適なビット割当を行うために必要な評価関数を算出する。すなわち、部分帯域分割数を*N*、部分帯域番号を*i*(近周波数から高周波数に順に番号を付ける。*i* < *N*)、部分帯域番号*i*の最大値情報を*P_i*、信号のパワーを*S_i*、信号によってマスクされるパワー(以下、マスクトパワーと呼ぶ)を*M_i*、1区間内の間引き後のサンプル数を*L_i*、割当ビット数を*B_i*、1区間内でサンプル情報に割当可能な全ビット数を*M_i*とする。部分帯域番号*i*の量子化端音パワーは次式で求められる。

$$(2P_i / 2^{B_i})^2 / L_i$$

したがって、全帯域の量子化端音パワーに対するマスクトパワー比(NOISE-TO-MASK RATIO、以下、NMRと呼ぶ)は次式で与えられる。

$$\sum_{i=1}^k (2P_i / 2^{B_i})^2 / (L_i M_i)$$

ビット割当決定部54は、次式に示す固定ビットレートの条件の下でNMRを最小化するビット割

価関数を求めて出力する。

第7図はビット割当決定部54のフローティートである。ビット割当決定部54は、ステップ1で初期化処理を行った後、ステップ2とステップ3を繰り返すことにより、NMRを最小にする部分帯域番号*i*の割当ビット数*B_i*を決定し、出力する。

ステップ1では、割当可能なビット数*B*を*B_q*に、*B_i* (< 1 < *N*) を0に設定する。

ステップ2では、評価関数*B_i*を最大とする部分帯域番号*k*を見い出す。

ステップ3では、割当可能なビット数*B*から*k*を引く。*B*が0以上の場合、この部分帯域に割り当てるビット数*B_k*を1増加させ、かつ評価関数*E_k*から1を引く。*B*が負の場合、ビット割当処理を終了する。

量子化部55は、分析フィルタ部51からの各部分帯域の各区間の信号を最大値情報決定部52からの最大値情報を用いて正規化し、ビット割当決定部54からのビット割当情報を用いたがって各

特開平4-177300(4)

部分帯域の信号を量子化し、サンプル情報として出力する。多重化部81は、量子化部55からの各部分帯域のサンプル情報と最大値情報決定部52からの各部分帯域の最大値情報をピット割当決定部54からの各部分帯域のピット割当情報をとを多量化し、符号化信号を出力する。

最大値情報決定部52と評価関数算出部53とピット割当決定部54と量子化部55と多重化部58はマイクロプロセッサで構成できる。

第8図は従来の音声帯域分割符号化装置のブロック図を示すものである。

第8図において、81は逆多重化部、82は逆量子化部、83は合成フィルタ部である。

以上のように構成された音声帯域分割符号化装置について、以下その動作を説明する。

第8図において、逆多重化部81は、入力された符号化信号を各区間に分離し、各区間の信号を各部分帯域毎のサンプル情報と最大値情報とピット割当情報をとに分離し、出力する。逆量子化部82は、各部分帯域毎に、逆多重化部81からのサ

感知していないので、特に低域の部分帯域で折返し歪が発生し、音質を劣化させることがある。低域の部分帯域で折返し歪の影響が大きい理由は、分析および合成フィルタの実現上の難題から低域では部分帯域の帯域幅が臨界帯域幅より大きく、マスキング効果が小さいことによる。また、オリジナルの高品位音声信号との透明性（トランスペアレンシー）を確保するためにピットレートを上げたときにも前記誤差の影響によってピット割当が最適とならないという問題点があった。

本発明は上記従来の問題点を解決するもので、分析フィルタの折返し歪に代表されるマスキング規則適用時の誤差を減少させピット割当の最適化を図ることにより、音声信号の品質が向上した音声帯域分割符号化装置を提供することを目的とする。

課題を解決するための手段

この目的を達成するために本発明の音声帯域分割符号化装置は、音声信号を複数の部分帯域に分割し、各部分帯域の信号を所定の時間保有する区

ンブル情報をピット割当情報を用いて逆量子化を行い、次に最大値情報を用いて逆正規化し、各部分帯域の各区間の信号を再生する。逆多重化部81と逆量子化部82はマイクロプロセッサで構成できる。合成フィルタ部83は、複数の帯域通過フィルタからなるフィルタ群であり、逆量子化部82からの各部分帯域の各区間の信号を合戻してデジタル音声信号を再生し、出力する。合成フィルタ部83の各帯域通過フィルタは分析フィルタ81とペアをなすデジタルフィルタによって構成される。

発明が解決しようとする課題

しかしながら、上記従来の音声帯域分割符号化装置では、マスキング規則を適用する際の近似誤差によりマスクトパワーに誤差を生じ、誤差を含んだ評価関数に基づいてピット割当を行うので音声信号の品質が劣化するという問題点を有していた。文献2に記載されている音声帯域分割符号化装置では、マスキング規則の適用時に分析フィルタの間引きによって発生する折返し歪の影響を考

慮して分割する分析フィルタ部と、各部分帯域等に、前記区間内の信号の絶対値の最大値を表す最大値情報を決定し、出力する最大値情報決定部と、各部分帯域毎に、前記最大値情報決定部からの最大値情報を対数から、前記分析フィルタ部からの部分帯域の信号と聽覚のマスキング規則に基づいて算出した各部分帯域のマスクされるパワーの平方根の対数に重み付け係数を掛けたものを引くことにより重み付け評価関数を求める、出力する重み付け評価関数算出部と、前記重み付け評価関数算出部からの重み付け評価関数を用いて各部分帯域に割り当てるピット数を決定し、ピット割当情報を出力するピット割当決定部と、各部分帯域毎に、前記分析フィルタ部からの部分帯域の信号を、前記最大値情報決定部からの最大値情報と前記ピット割当決定部からのピット割当情報をに基づいて量子化し、サンプル情報を出力する量子化部とを備えたものである。

また本発明の音声帯域分割符号化装置は、音声信号を複数の部分帯域に分割し、各部分帯域の信

特開平4-177300(5)

号を所定の時間を有する区間に分割する分析フィルタ部と、各部分帯域毎に、前記区間内の信号の絶対値の最大値を表わす最大値情報を決定し、出力する最大値情報決定部と、各部分帯域毎に、前記最大値情報決定部からの最大値情報の対数から、前記分析フィルタ部からの部分帯域の信号と聽覚のマスキング規則に基づいて算出した各部分帯域のマスクされるパワーの平方根の対数に複数の重み付け係数を掛けたものを引くことにより複数の重み付け評価関数を求める、出力する重み付け評価関数算出部と、前記重み付け評価関数から既に割り当てられたビット数を引いた値に応じて前記複数の重み付け評価関数を選択して、各部分帯域に割り当てるビット数を決定し、ビット割当情報を作出するビット割当決定部と、各部分帯域等に、前記分析フィルタ部からの部分帯域の信号を、前記最大値情報決定部からの最大値情報と前記ビット割当決定部からのビット割当情報とに基づいて量子化し、サンプル情報を作出する量子化部とを備えたものである。

該値に応じてマスキング効果と波形歪のビット割当に及ぼす貢献度を変化した重み付け評価関数を適用し、該当ビット数が小さいときには、マスキング効果を活用して効率的にビットを割り当てる、割当ビット数が大きくなり、量子化雑音のマスキング値が一歪の閾値以上となったときには、波形歪に基づいてビットを割り当てるこによって、最適なビット割当を行い、マスキング規則適用時の誤差の影響を軽減し、音声信号の品質、特に透明性を向上することができる。

実施例

以下、本発明の実施例について、図面を参照しながら説明する。

第1図は、本発明の実施例における音声帯域分割符号化装置のブロック図を示すものである。

第1図において、11は分析フィルタ部、12は最大値情報決定部、13は重み付け評価関数算出部、14はビット割当決定部、15は量子化部、16は多重化部である。

以上のように構成された音声帯域分割符号化装置

作用

本発明は上記した構成により、重み付け係数の値によってマスキング効果と波形歪の貢献度を可変することが可能な重み付け評価関数を用いてマスキング効果が小さく折返し歪の影響の大きい部分帯域では波形歪の貢献度を大きくするように部分帯域毎に重み付け係数を設定し、重み付け評価関数算出部で前記重み付け係数を用いて重み付け評価関数を算出し、ビット割当決定部で前記重み付け評価関数を用いて各部分帯域に割り当てるビット数を決定することによって最高なビット割当を行い、折返し歪の影響を軽減し、音声信号の品質を向上することができる。

また本発明は上記した構成により、重み付け評価関数算出部で複数の重み付け評価関数を算出し、ビット割当決定部で重み付け評価関数から既に割り当てられたビット数を引いた値に応じて前記複数の重み付け評価関数を選択して各部分帯域に割り当てるビット数を決定することによって、割り当てられたビット数による量子化雑音のマスキン

置について、以下その動作を説明する。

本実施例では、音声帯域分割符号化装置としては従来例と同じものを用いることができる。また、本発明の実施例のブロック図を表わす第1図において、11、12、15、16は、それぞれ第5図に示す従来例の51、52、55、56と同一の構成要素である。

以下、本発明の2つの実施例についてその動作を説明する。2つの実施例のブロック図はともに第1図であり、同一であるが、重み付け評価関数算出部13とビット割当決定部14の動作が異なる。

最初に、第1の実施例について図面を参照しながらその動作を説明する。

第1図において、分析フィルタ部11は入力されたデジタル音声信号を複数の部分帯域に分割するための複数の帯域通過フィルタからなるフィルタ群である。分析フィルタ部11はデジタルフィルタであり、例えばツリー構成のQMFで構成できる。分析フィルタ部11で複数の部分帯域に分割された信号は、5msから20msの前述の時

特開平4-177300(6)

間を有する区間に区切られる。最大値情報決定部12は、分析フィルタ部11から各部分帯域毎に区間内の信号の絶対値の最大値を求め、最大値情報を出力する。最大値情報としては、例えば最大値を6ビットで対数量子化したものが用いられる。重み付け評価関数算出部13は、ピット割当決定部14で最適なピット割当を行うために必要な重み付け評価関数を算出する。図2図は、第1の実施例における重み付け評価関数算出部13のフローチャートである。本実施例における変数の意味は従来例と同一である。重み付け評価関数算出部13では、最初に分析フィルタ部11からの各部分帯域の信号を用いて部分帯域番号iの信号のパワーSIを算出する。次に、各部分帯域の信号のパワーとマスキング規則に基づいて、帯域内の信号によってまた隣接帯域の信号によってマスキングされて人間の耳には聞こえないマスクトパワーMIを算出する。マスクトパワーの算出法については、例えば文献2に記載されている方法による。次に、各部分帯域毎に次式で与えられる重み

ための評価関数となる。以上のように重み付け評価関数は、重み付け係数WIの値によってマスキング効果と波形歪の質感度を可変することが可能な評価関数である。

第1の実施例では、マスキング効果が小さく折返し歪の大きい部分帯域では波形歪の質感度が大きくなるように部分帯域毎に重み付け係数を設定し、重み付け評価関数を算出する。

ピット割当決定部14は、従来例と同一の動作をする。すなわち、ピット割当決定部14のフローチャートは第7図によって示される。ピット割当決定部14は、ステップ1で初期化処理を行った後、重み付け評価関数を用いてステップ2とステップ3を繰り返すことにより部分帯域番号iの割当ビット数Biを決定し、出力する。

ステップ1では、割当可能なピット数BをB0にし、Bi(1≤i≤N)を0に設定する。

ステップ2では、重み付け評価関数Biを最大とする部分帯域番号kiを見い出す。

ステップ3では、割当可能なピット数Bからし

付け評価関数Eiを算出する。

$$E_i = \log_2(P_i - (\log_2 M_i) W_i) / 2$$

すなわち、最大値情報決定部12からの最大値情報をPiの2を底とする対数から、マスクトパワーの2を底とする対数に重み付け係数WIの2分の1を掛けたものを引くことにより重み付け評価関数Eiを算め出力する。

ここで、重み付け評価関数Eiの意味について説明する。重み付け係数WIが0のときは、

$$E_i = \log_2 P_i$$

となる。これは次式で与えられる全帯域の量子化音声パワーを最小にするための、すなわち波形歪を最小にするための評価関数である。

$$\sum_{i=1}^N (2P_i / 2^{B_i})^2 / 12$$

一方、重み付け係数WIが1のときは、

$$E_i = \log_2 P_i - (\log_2 M_i) / 2$$

となり、従来例で述べた評価関数と一致する。すなわち、重み付け評価関数はNM次を最小にする

を引く。Bが0以上の場合、この部分帯域に割り当てるピット数BKを1増加させ、かつ重み付け評価関数Eiから1を引く。Bが負の場合、ピット割当処理を終了する。

量子化部15は分析フィルタ部11からの各部分帯域の各区間の信号を最大値情報決定部12からの最大値情報を用いて正規化し、ピット割当決定部14からのピット割当情報をしたがって各部分帯域の信号を量子化し、サンプル情報をとして出力する。多重化部16は量子化部15からの各部分帯域のサンプル情報を最大値情報決定部12からの各部分帯域の最大値情報とピット割当決定部14からの各部分帯域のピット割当情報を多量化し、符号化信号を出力する。

最大値情報決定部12と重み付け評価関数算出部13とピット割当決定部14と量子化部15と多重化部16はマイクロプロセッサで構成できる。

以上のように第1の実施例によれば、重み付け係数の値によってマスキング効果と波形歪の質感度を可変することが可能な重み付け評価関数を算

特開平4-177300(7)

出する重み付け評価関数算出部と、重み付け評価関数算出部からの重み付け評価関数を用いて各部分帯域に割り当てるビット数を決定するビット割当決定部とを設け、分析フィルタ部の折返し送のマスキング量に応じて各部分帯域等に重み付け係数を設定することにより、最適なビット割当を行い、折返し送の影響を軽減し、音声信号の品質を向上させることができる。

次に、本発明の第2の実施例について図面を参照しながらその動作を説明する。

第2の実施例においては、分析フィルタ部11、最大値情報決定部12、量子化部15、多量化部18についてはその動作は第1の実施例と同一であり、説明を省略する。以下、第1の実施例と動作が異なる重み付け評価関数算出部13とビット割当決定部14についてその動作を説明する。

重み付け評価関数算出部13は聴覚のマスキング効果と波形差とに基づいて、ビット割当決定部14で最適なビット割当を行うために必要な複数の重み付け評価関数を算出する。第3図は、第2

とN)を有する重み付け評価関数E_{i2}を算出する。第2の実施例では、第2の重み付け係数W_{i2}(1当り当N)を0に設定し、波形差のビット割当によれば質感度を最大にしている。E_{i2}は次式によって算出される。

$$E_{i2} = \log_2 P_i - (10 g_i M_i) / 2$$

すなわち、最大値情報決定部12からの最大値情報P_iの2を底とする対数を算出することにより、第2の重み付け評価関数E_{i2}を求める。重み付け評価関数算出部13は以上のようにして求めた第1と第2の重み付け評価関数をビット割当決定部14に出力する。

第4図は第2の実施例におけるビット割当決定部14のフローチャートである。ビット割当決定部14は、ステップ1で初期化処理を行った後、重み付け評価関数を用いてステップ2とステップ3を繰り返すことにより部分帯域番号jの割当ビット数B_jを決定し、出力する。

ステップ1では、jを1に設定し、第1の重み付け評価関数を選択する。割当可能なビット数B

の実施例における重み付け評価関数算出部13のフローチャートである。重み付け評価関数算出部13では、最初に分析フィルタ部11からの各部分帯域の信号を用いて部分帯域番号jの信号のパワーS_jを算出する。次に、各部分帯域の信号のパワーとマスキング規則とに基づいて、帯域内の信号によってまた解説帯域の信号によってマスキングされて人間の耳には聞こえないマスクトパワーM_jを算出する。次に、各部分帯域毎に、第1の重み付け係数W₁₁(1当り当N)を有する重み付け評価関数E₁₁を算出する。第2の実施例では、第1の重み付け係数W₁₁をすべて1に設定し、マスキング効果のビット割当によれば質感度を最大にしている。E₁₁は次式によって算出される。

$$E_{11} = \log_2 P_i - (10 g_i M_i) / 2$$

すなわち、最大値情報決定部12からの最大値情報P_iの2を底とする対数からマスクトパワーの2を底とする対数に2分の1を掛けたものを引くことにより重み付け評価関数E₁₁を求める。次に、各部分帯域毎に第2の重み付け係数W₁₂(1当り

をB_qに、B₁(1当り当N)を0に設定する。

ステップ2では、重み付け評価関数E₁₁を最大とする部分帯域番号jを見い出す。

ステップ3では、jが1のときはステップ2で見つけた重み付け評価関数の最大値E_{max}と閾値Tを比較し、閾値以下ときはjを2に設定しステップ2に戻る。jが1でないときおよび重み付け評価関数の最大値が閾値より大きいときには、割当可能なビット数B_jから1を引く。B_jが0以上の場合、この部分帯域に割り当てるビット数B_jを1増加させ、かつ2つの重み付け評価関数E₁₁とE₁₂から1を引く。B_jが負の場合、ビット割当処理を終了する。

重み付け評価関数算出部13とビット割当決定部14はマイクロプロセッサで構成できる。

以上のように第2の実施例によれば、複数の重み付け係数を有する重み付け評価関数算出部とビット割当決定部とを設けることにより、割当ビット数が小さいときにはマスキング効果を活用して効率的にビットを割り当て、割当ビット数が大き

特開平4-177300(8)

くなり、量子化雑音のマスキング量が一定の閾値以上となったときには、波形歪に基づいてビットを割り当てるこによって最適なビット割当を行い、マスキング規則適用時の誤差の影響を軽減し、音声信号の品質、特に透明性を向上させることができる。

なお、第1および第2の実施例において、ビットレートは固定としたが、ビットレートを可変とし、ビットレートに応じて重み付け係数あるいは閾値を設定してもよい。

また、第1および第2の実施例において、マスクトパワーの算出には分析フィルタ部からの部分帯域の信号を用いたが、マスキング規則のより精度の高い適用を目的としてFFT分析器のような周波数分解能の高い分析器を設け、その出力を用いてマスクトパワーの算出を行ってもよい。

発明の効果

以上のように本発明は、重み付け係数の値によってマスキング効果と波形歪の貢献度を可変することが可能な重み付け評価関数を算出する重み付

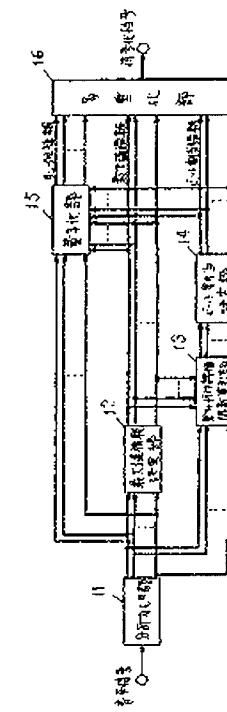
品質、特に透明性を向上させることができる。

4. 図面の簡単な説明

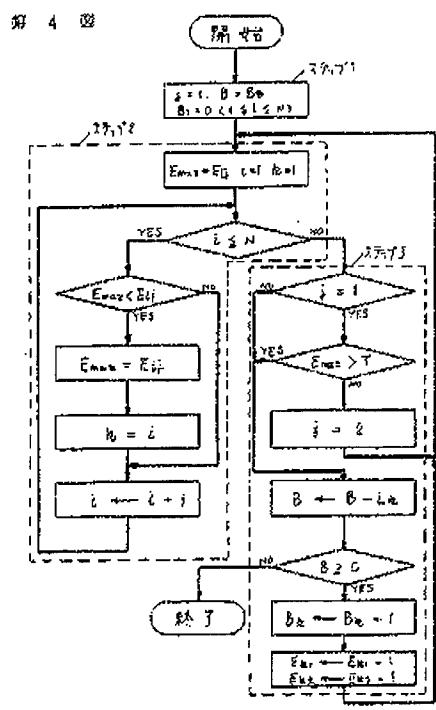
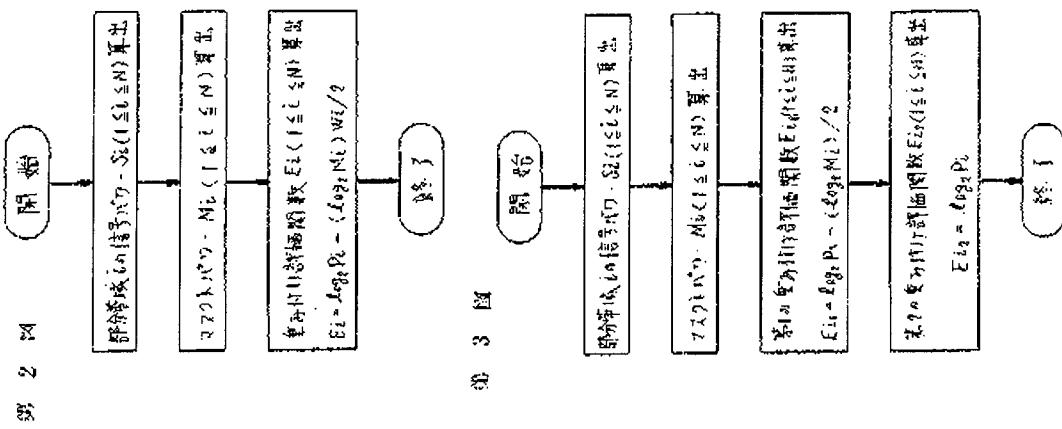
第1図は本発明の実施例における音声帯域分割符号化装置の構成を示すブロック図、第2図は本発明の第1の実施例における重み付け評価関数算出部のフローチャート、第3図は本発明の第2の実施例における重み付け評価関数算出部のフローチャート、第4図は本発明の第2の実施例におけるビット割当決定部のフローチャート、第5図は従来の音声帯域分割符号化装置の構成を示すブロック図、第6図は従来の評価関数算出部のフローチャート、第7図は従来のビット割当決定部のフローチャート、第8図は従来の音声帯域分割符号化装置の構成を示すブロッケーションである。

11…分析フィルタ部、12…最大値情報決定部、13…重み付け評価関数算出部、14…ビット割当決定部、15…量子化部、16…多量化部。

代理人の氏名 夫連士 小野治 明 ほか2名

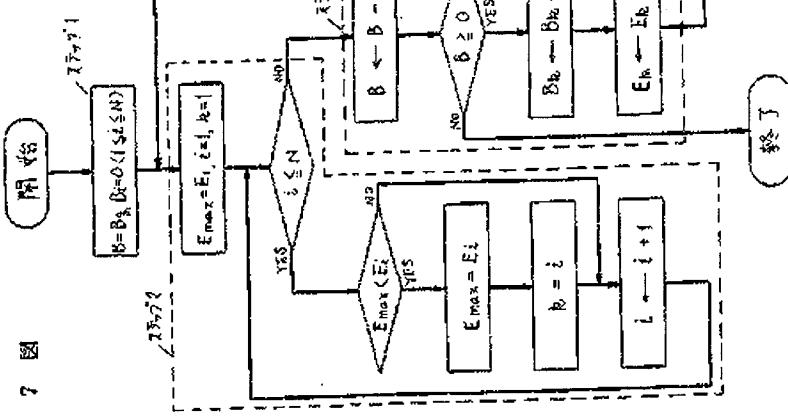
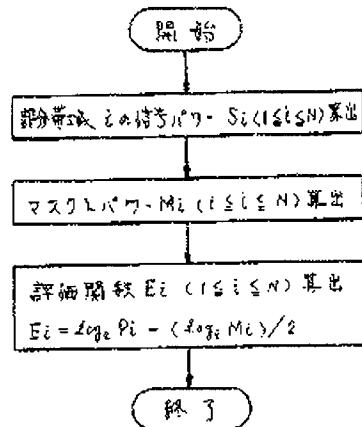


特開平4-177300 (8)



特開平4-177300 (10)

第 6 図



第 8 図

